



日本と韓国におけるスポーツ科学に関するワークショップ

からこのスポーツワークショップに参加しました。また、スポーツ科学に関する学外の大学や国立スポーツ科学センター、東京オリンピック2020に関連した施設視察など、さまざまな視点から日本のスポーツ科学技術に触れるプログラ

【初日】日本に入国し、翌日以降のプログラム実施について最終打ち合わせを実施しました。  
 【二日目】国士舘大学多摩キャンパスにて設備見学や測定体験、日本と韓国におけるこれからのスポーツ科学に関するワークショップを実施しました。招へい者および本学の研究紹介や研究の問題点に関して意見を述べ、日本と韓国におけるスポーツ科学や応用科学分野に関する問題点について情報の共有を行いました。  
 午後は、学内にて体脂肪量測定システムや形態計測などの最先端機器の紹介や測定体験を行い、実際にアスリートに対して得られたデータをどのように活かしていくかの事例を検討したうえで、議論を実施。招へい者からは特に発育発達段階の子どものサポートについて強い関心が寄せられました。その後学内のトレーニングセンターおよび部活動の実施場所について見学を行いました。  
 【三日目】学外へ赴き、東京オリンピック2020の会場視察や日本オリンピックミュージアムで視察を行い、オリンピックミュージアムに関する国内の状況について理解を深めました。  
 【四日目】国士舘大学世田谷キャンパスにおいて、設備見学や測定体験を行いました。実際に実験で使用している機材である3次元モーションキャプチャーシステムや足底圧分析

最先端科学技術活用したスポーツ・健康研究の日韓交流  
 国士舘大学では、科学技術振興機構(JST)「さくらサイエンスプログラム」の支援を受け、「最先端科学技術を活用したスポーツ・健康科学研究の日韓交流によるグローバル化の促進」をテーマに、韓国との交流計画を実施しました。今年2月12日～18日の期間、韓国体育大学校(韓国)、ソウル体育高等学校(韓国)、大韓障害人ポルト連盟(韓国)、慶熙大学校(韓国)、信韓大学校(韓国)か

ら教員、研究者計10名が来日し、学内における最先端機器の体験や視察などに参加しました。  
 また、スポーツ科学に関する学外の大学や国立スポーツ科学センター、東京オリンピック2020に関連した施設視察など、さまざまな視点から日本のスポーツ科学技術に触れるプログラ

最先端科学技術活用した

スポーツ・健康研究の日韓交流



古田 なつみ  
 (国士舘大学大学院  
 スポーツ・システム  
 研究科助手)



船渡 和男  
 (国士舘大学大学院  
 スポーツ・システム  
 研究科特任教授)

国士舘大学の活動報告

科学技術  
 振興機構  
 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

II 特別連載 II

第402回

|             |     |                                                                     |
|-------------|-----|---------------------------------------------------------------------|
| プログラムスケジュール | 1日目 | 羽田空港着、新宿へ移動<br>自己紹介とプログラムの趣旨説明                                      |
|             | 2日目 | 国士舘大学多摩キャンパス内設備見学<br>スポーツ科学に関する最先端機器計測体験<br>招へい者と受入機関教員・大学院生の研究内容発表 |
|             | 3日目 | 東京2020における<br>水上競技種目の会場およびトレーニング施設<br>日本オリンピックミュージアム視察              |
|             | 4日目 | 国士舘大学世田谷キャンパス内設備見学<br>3次元モーションキャプシステム、足底圧分布計測体験                     |
|             | 5日目 | 日本体育大学訪問<br>国立スポーツ科学センター施設内見学ツアー                                    |
|             | 6日目 | 成果報告会(意見交換会)                                                        |
|             | 7日目 | フェアウェル会、羽田空港にてお別れ                                                   |



成果報告会



国立スポーツ科学センターを視察



3次元モーキャップシステムの計測体験

装置について招へい者自らが体験しました。実際の計測と同様のプログラムを実施し、どのようなデータが得られ、どのように活用されているかの事例や計測結果に基づきながらフィードバックを行いました。参加者からは「この計測によって個々のアスリートが抱える問題点について抽出することができ、その改善に役立てることが興味深い」とコメントをいただいております。

【五日目】スポーツ科学分野の視察のため、近隣の大学を訪問しました。また、国立スポーツ科学センターのツアーに参加することで、学外における日本のスポーツ科学技術について理解を深めることができました。招へい者

の皆様は、国立の施設だけではなく、大学における施設設備の充実やそれに付随するサポート体制について関心を寄せていました。

【六日目】これまでの測定体験や視察を元に、「日本と韓国におけるこれからのスポーツ科学」について成果報告会を行いました。招へい者の皆さんからは、「今回の経験を韓国国内でも紹介し、新たな共同研究へつなげたい」という強い意志を示してもらいました。日本のスポーツ科学は、特に最先端機器の設備の充実が素晴らしく、これらをより活用して国際的な共同研究を実施することにより、日本と韓国における共通の課題の解決を試みる必要があるとお互いに意見を交換し合いました。

【最終日】日本を出国、無事に韓国へ帰国されました。

### ■プログラムの成果

最終日前日の意見交換会を通してスポーツ・健康科学の研究の意義と実践での活用の重要性を共有できました。また近い将来に予定されている両国での体育・スポーツ・健康に関する学術会議にそれぞれを演者として招待し、さらなる国際交流を行っていくことが約束されました。また、本交流で紹介した研究方法を活用して、両国間で次の4テーマの具体的な研究発展に繋げる提案がなされました。

- ① ヒトの体の形の特徴
- ② 肥満や過体重の再考
- ③ 健康寿命と歩行能力の関係
- ④ 国際競技力向上に資する科学的な競技者評価

本プログラムに参加した大学院生は、自分の研究についての学術的及び社会的意義を念頭に、研究の背景や目的を再考しました。そして、国際プログラムで発表することにより、得られた結果の解釈を社会に還元する点から、より俯瞰的に研究を捉える有益な機会となりました。

### ■今後の展望

日本と韓国社会がともに抱える将来への大きな課題は、高齢化と少子化問題です。人間の健康や長寿にかかわる医学やスポーツ科学研究において日本はトップランナーであり、その研究成果を両国の社会、政治および文化的事情に合わせて社会実装し、貢献していくことが今後の課題です。日韓両国の多くの若手研究者が当課題や研究分野に関心を持つことを促し、その流れに中国やASEAN諸国との連携を付加することで、国際研究交流へと発展させることを目指します。

本プログラムの準備と実施にあたっては、本大学院博士課程学生の尹 鉉喆(ユン ヒョン Chol) 氏に多大なご協力をいただきました。ここに感謝の意を表します。